

昭和七年



空から見たソヴェートロシア大使館(昨秋竣功)

四月一日

日本空中作業會社撮影

鐵道

○大阪城東線竣工
電化される同線工事は一部失業救済事業として大阪改良事務所の手で進捗中の處此程完成二十四日夜線路切替を行つた。

尙本線が電化されるのは明年一月一日からの豫定。

○參急新線開通
かねて施工中の參宮急行電鐵津延長線が三月中には完成するので電鐵では愈々四月三日より新線の運轉を開始することゝなつた、延長線は現在の津新町より省線津驛にいたる延長は二軒三分の新線で津驛

構内に於いて省線に連絡するものであるが、これが爲め大阪方面より四日市及名古屋方面へ向ふ旅客は頗る便利となり同時に同市附近の交通上に一エホツクを劃することゝなる。

鐵道交通の懇話會
國有鐵道と民間私鐵事業者其他各種の交通機關の統制を圖らんがため鐵道省内に陸運統制委員會を設置したが更に新しき試みとして外部と鐵道當局との接觸を圖るため今後折にふれて交通懇話會なるものを開催する事に決し其第一回として三月九日正午より鐵相官邸に鐵道出身の交通界の元老たる野村龍

太郎、古川阪次郎、中川正左、岡野昇、青木周三、八田嘉明、岡田竹五郎島安次郎、杉浦宗三郎、諸氏を招き本省側からは床次鐵相を始め久保田、荒尾兩次官、野田參與官以下各局長、各幹部課長を出席せしめ我國交通界の現情及び將來の統制策につき隔意なき懇談をとげた。

道路

○湘南遊歩道
神奈川縣營湘南遊歩道の計畫は四月から愈々着手することに決定し第一期工事として七年夏に施工する區或を調査中であつた處曩に三十七萬

工學會大會第二回の開催

我國の工學關係の聯合會である日本工學會主催の下に、本年四月五日から五日間東京帝國大學構内に於て第二回工學會大會が開催される事になつた。右は土木、建築、電氣、機械其他の最近の進歩を紹介し、工學工業工藝に關する知識の交換及び會員相互の親睦に資せんとするもので、先年我國に於て開催した萬國工業大會後の開催であるから定めし盛會の事と思はれる。

土木建築方面の發表論文は次の豫定である

四月五日午前九時開會、(東京帝大大講堂)

開會の辭 日本工學會理事長 古市博士

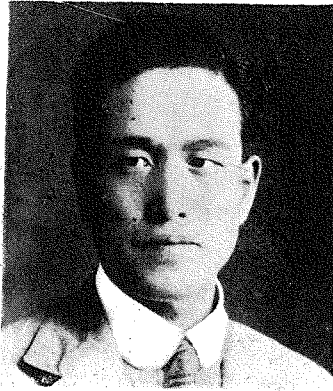
祝 辭 鳩山文相、前田商相

議 事 十二學會代表講演(各25分)桂博士、今泉博士、大河戸博士、波多野中將、今岡博士、大熊博士、莊司博士、北浦氏、朝倉博士、納富博士、大畑氏、鯨井博士、

閉會の辭 日本工學會副理事長、斯波博士

晚餐會 午後六時半(上野精洋軒)

四月六日土木學會講演會 午前九時(東京帝大)



佐藤眞次氏 京市水道局擴張課の鐵管敷設掛長で本文工事を統制されてゐる。

圓を投じて大磯、片瀬間を施工豫定であつたが調査の結果更に逗子町より片瀬まで延長することに變更された。

橋 梁

豆津橋 福岡、佐賀兩縣を連絡する府縣道神崎線中筑後川に架設中の豆津橋はこの程竣工したので三月十九日現場に於て中山福岡、早川佐賀兩知事主催の下に盛大なる開通式を舉行了。同橋は日本最初の鐵筋コンクリート造りケルバー桁橋で九州帝

大の鐵筋學の大斗吉田博士が特に指任の任に當つたものである。

宮崎縣耳川に新橋梁 同縣當局では目下改修中の國道中耳川に新橋梁を架設することになつた場所は東臼杵郡岩脇村と兒湯郡美々津町の境で、新設橋梁は總工費 24萬6千圓で縣第一の橋で橋長は百六十五米半、幅員は七米半あり橋の形式も二鉸式鋼拱橋(徑間六十四米二連、十七米六二連)

港 灣

和歌山築港起工式 は三月五日海草郡淡村鼠島の現場で盛大に舉行された。築港計畫は内務省で施工した紀ノ川改修工事の附帯工事として縣より内務省が委託を受けて施工するもので全く新例と稱すべく總工費 170萬圓六年度以降七ヶ年の繼續事業となつてゐる、計畫の大要を示すと河口に沿ひ二千百メートルの防波堤を設け更に之と對して四百三十メートルの築造、12萬2千平方メートルの埋立を行ひ水面積21萬3千平方メートル(大部分水深干潮面以下4米5)の内の港を設ける外10萬5千平方メートルの若木場、4千950メートルの護岸を築く事となつてゐる。

水 道

神戸上水道 の第二回擴張工事は此程完成 3月12日盛大な竣工式を舉げた。この工事は大正十四年着工し六ヶ年の年月と994萬圓の巨費を投じて竣工したもので工費の主なるものは千刈大水源池の盛上げ會下山配水池の新設をはじめ武田尾の水管橋、生瀬上ヶ原間のトンネル上ヶ原淨水池の機械濾過池、上ヶ原會下山間の36吋鐵管の新設、灘方面における延長2.5里にわたる鐵管の敷設、同三配水池の新設、平野淨水池の機械濾過二個の増設等での擴張工事の結果、市の配水戸數は六萬二千二百戸分を増加して16萬1千200戸となり、配水能力において綽々たる餘裕を残す事になつた。桐生市水道 は水源工事も大半終了し、一般給水工事を開始してゐるが 現在の工事進捗状況より見れば三月一杯に水源工事を終り四月中旬通水の見込であると。

建 築

文部省上棟式 文部省新築廳舎の上棟式は豫定の如く三月十日午前十時東京市内麴町く

工學部第一號教室

地下鐵道の建設法(小野諒兒)東京市の下水道(高橋甚也)地震時土壓の實驗的研究(松尾春雄)、兩國御茶水間高架線工事(平井喜久松)、舗装用瀝青乳劑の性質(西川榮三)、格子の理論と其應用(福田武雄)

四月七日(同上) コンクリート材料の分離(吉田徳次郎)、鐵道省保線技術の現況(井上隆根)、我國河川の流量(菊池英彦)、ソリッド・ベッド(山崎匡輔)留兩港の設備(田中吉政)地方計畫に就て(武居高四郎)

四月六日建築學會講演會 午後一時(帝大法學部第三十一番室)

開會の辭(松井清足)カセイン接合劑(森徹)、粉末

狀珪酸質物を混合したるモルタルの強度(狩野春一)、平盤基礎の大き及形狀と地耐力との關係(加藤得三郎)地盤の樺作用に對する實驗的考察(岡隆一)北伊豆地震の被害より見たる土臺緊結の可否(田邊平學)鐵筋コンクリートの柱及梁に於けるコンクリート安全率の選擇(濱田稔)鐵筋コンクリートにより補強せられたる鑄造々合部の強度(内藤多仲、鶴田明)鐵筋コンクリート架構隅角部の研究(二見秀雄)高層多張間架構に於て耐震性は如何に配置するが有效なるか(吉田宏彦)水平力を受ける矩形架構の略算法(武藤清)層虛點撓角比の利用に依る横力に對する高層架構略算法(石井勇)振幅大なる鐵筋コンクリート材の振動性に就て(河野輝夫)東

虎の門新廳舎に於いて舉行せられた當日は文相鳩山一郎氏を始め關係者一同參集古式に倣つて式は約一時間半にして無事終了した。新廳舎は總工費 250萬圓を計上して昨年六月起工せられたものであるが竣功は昭和 8 年夏末であり主體工事は大林組の請負で目下鐵骨の組立を了し近くコンクリートの打込を開始する筈である。

人 事

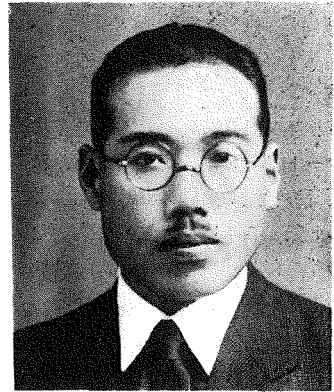
志賀橋介氏 高等官二等に叙せられたる鐵道省工務局技師の同氏は、鐵道省を退き、今回宮地鐵工所の顧問となつた。

森川藤次氏 高等官二等に叙せられたる東京鐵道局技師の同氏は今回依願免官となつた

土木部長及課長の移動 昨年12月1日大養政友會内閣成立後に地方長官の大異動があり、續いて府縣土木部課長に次の移動があつた。

- 三輪 周三氏
大阪府土木部長(前任兵庫縣)
- 吉岡計之助氏
兵庫縣土木部長(前任静岡縣)
- 木村憲七郎氏

- 静岡縣土木課長(前任富山縣)
- 西 義 一氏
千葉縣土木課長(前任埼玉縣)
- 田中 三郎氏
埼玉縣土木課長(前任岩手縣)
- 上野 節夫氏
岩手縣土木課長(前任廣島縣)
- 後藤 季聰氏
廣島縣土木課長(前任岐阜縣)
- 岩崎 雄治氏
岐阜縣土木課長(前任茨城縣)
- 荒木 榮二氏
茨城縣土木課長(前任奈良縣)
- 澁江 武氏
依願免官大阪府土木部長
- 東 森 藏氏
依願免官千葉縣土木課長
- 上田 柳一氏
奈良縣土木課長(前任兵庫縣)
- 春藤 眞三氏
富山縣土木課長(前任神奈川縣)
- 菅 良 二氏
徳島縣土木課長(前任山形縣)
- 木幡 長命氏
山形縣土木部長(前任岐阜縣)
- 丸山 悦三氏
秋田縣土木部長(前任熊本縣)
- 榎井 照藏氏
熊本縣土木課長(前任青森縣)



西野喜一氏 東京市水道局擴張課の銕接鐵管敷設工事に現場主任として活躍されてゐる

- 三浦義太郎氏
青森縣土木課長(前任宮城縣)
- 土肥憲二郎氏
福島縣土木課長(前任大分縣)
- 中山 熊雄氏
大分縣土木課長(前任福井縣)
- 淺見 洋氏
福井縣土木課長(前任福島縣)
- 宮内 義則氏
三重縣土木課長(前任東京土木出張所)
- 齋藤 英夫氏
依願免官三重縣土木課長

京地質の硬軟に關する數量的調査(北澤五郎) 唐様及天竺様式の傳來(田邊泰) 住宅の轉用性(前田松誦) 窓の形と室内照度の關係(大村幸一郎) 鐵筋コンクリート構造建築の傳熱(谷口吉郎) 中空通氣壁構造の防腐防暑並に防濕的効果(十代田三郎) 室内に於ける音響減衰の性質に就て(池谷定雄) 定常波法による吸音係數測定(市浦健、船越義房) 餘響法による吸音係數測定(佐藤武夫) 閉會の辭(大熊喜邦)

四月七日午後一時(帝大法學部第三十一番室)
閉會の辭(松井清足) 建築材料の進路(吉田享二) 滿洲の建築(久留巖文)、建築教育(古宇田) 實住宅建築(土屋純一)、新興日本の建築(佐野利器)、歐洲を巡りて(武田五一) 閉會の辭(大熊喜邦)

**大河戸宗治博士の
混凝土講演**

第二回工學會大會第一日に於て、各學會代表講演の中で、大河戸博士の混凝土の將來と云ふのがあつた。土木とは言はず建築言はず、凡そコンクリートを知らずして今日の工事技術を論ずるの資格もなく、又之を知らずして工事を職業とする事は出来ない。大河戸博士が土木學會を代表するコンクリート講演は最も當を得たものと言へよう。